

## 中国研修で見たこと・学んだこと

L164072 福間 太一

今回の中国研修では、多くのことを見て、多くのことを学ぶことができました。

空港についてすぐに文化の違いを思い知りました。国の玄関であるはずの北京国際空港の従業員たちが皆で集まってスマホゲームに興じていたからです。日本ではまず見るできないような光景だったので非常に驚かされました。その時に関先生がおっしゃった「日本と違って、人間が人間らしく働いている」という言葉と合わせて僕にとっては忘れられない出来事になりました。大抵の人には怠けたい、楽をしたいといった心理が少なからず存在しているのは確かです。日本、特に大人が働く社会の中ではそれらの感情は忌むべきものとして扱われています。国が変わるとここまで露骨に怠けようとするのかと衝撃を受けました。

次に学んだことは、日本の中華料理と本場の中華料理の味はかなり違うということです。中国に着いた最初の夜に食べた料理が僕にとってはカルチャーショックでした。日本では大阪王将や餃子の王将などのチェーン店でしか中華料理を食べたことがなかった僕にとって初日の夜の料理は辛すぎました。その一方で、翌日からの料理は食べやすかったです。小籠包やココナッツミルクなどかなり美味しいものもありました。

天安門に行ったときに武装警官を見てみたかったのですが見る事が出来ませんでした。夜の天安門はなかなか趣があるいい場所でした。



色々なものを見て、色々なことを学びましたが、その中で僕がいいことを学べたと感じたのは万里の長城を小走りで登り切った時です。万里の長城は段ごとに高さが違うためとても上り辛く、どれだけ登っても階段があると感じるほど長かったです。しかし、挑戦しているときは疲れよりも登ることの楽しさの方が大きく感じました。自己暗示をしながら笑顔で登っていたので傍から見ると変人のように見えたと思います。苦しいことでも笑いながら自己暗示していればなんとかなる、それが今回の研修で学べたことの中でも大きな経験です。

その他にも色々なことを見て、学ぶことが出来た今回の研修は僕にとってとても有意義で、楽しい経験でした。この経験をこれから活かせるように頑張ります。